陳情第３号

二本松市議会　議長様

母（王乖彦（オウカイゲン））が中国で不法に逮捕されている件に関する陳情

陳情者
住所：[redacted]
電話：[redacted]
氏名：張（チョウ）　一文（イチブン）

陳情の趣旨：

１,人道的な立場から、不当な扱いを受けている母の境遇にご関心をお持ちいただき、一刻も早く救出すべく、駐日中国大使館（03-3403-3388)、在中国日本大使館（+86 10 8531 9800）及び日本の外務省（03-3580-3311）に働きかけてください。。

２，国に「王乖彦さんの早期救出を求める意見書」を提出してください。

陳情の理由：

私は張一文と申します。10 年前留学のため中国宝鶏から来日しました。今は東京都に住みメディアに勤務しています。中国で逮捕拘留されている母・王乖彦の救援にご協力賜りたく、お願いを申し上げます。

母、王乖彦は 61 歳で、陝西省宝鶏市に住んでいます。2024 年 4 月 11 日に、母が友達の家にいた際、法輪功を修煉していることを理由に現地の警察に押し入られ、強制連行され、現在宝鶏市第二留置場（電話：86-917- 3572694）に拘束されています。

元々体が弱い母は 34 歳（私は 5 歳）の時、病院で心室性期外収縮と診断され、多くの医学専門家に診てもらいましたが、改善しませんでした。1998 年に、父の同僚に法輪功を紹介され、「真、善、忍」の教えに関心した母は法輪功を始めました。幸運なことに母は奇跡的に快復しただけでなく、その後二十数年に渡り、一度も病院に行くことなく、健康を維持してきました。

しかし、1999 年 7 月 20 日、当時の国家指導者、江沢民は、嫉妬心から法輪功への残忍な迫害を開始しました。拷問迫害による死亡者は、身元が確認できた人数だけでも 5000人以上に達しており、実際の人数は統計することすらできないと言われています。2023 年、陝西省では、少なくとも 215 人の法輪功学習者が迫害を受けています。そのうち、2 人が死亡し、63 人が不法に収容され、13 人が不法に逮捕され、12 人が不法に裁判にかけられ、47 人が不法に家宅捜索され、63 人が嫌がらせを受け、4 人が放浪生活を余儀なくされ、1 人が精神病院に収容されています。また、大連市長であった薄熙来は法輪功学習者から生きたまま臓器摘出を行うことを考え、それを瞬く間に全国に広め、臓器摘出から遺体の販売まで一貫して行う殺人産業を形成し、地球上にかつてない邪悪を造り出しました。

中国共産党政府の血に染まった手によって、健康体となった母から臓器が収奪される可能性さえあります。そして母が一日でも長く拘留されれば、その分拷問に遭うリスクも高くなるのです。

私は母と一緒に法輪功を修煉していたため、もし日本から中国に帰れば、飛行機から降りた途端に逮捕される恐れがあります。そのため、この 10 年間、親族が亡くなった時も中国に帰ることができませんでした。母の不法逮捕によって、悲しみと不安と無力感に苛まれている私に、どうかお力をお貸しくださいますよう、切にお願い申し上げます。

二本松市議会
収
6.7.-2
受
議第105号

王乖彦（オウカイゲン）さんの早期救出を求める意見書（案）

張　一文（チョウ　イチブン）さんは 10 年前に留学のため来日し、今は東京都に住みメディアに勤務しています。張さんの母親の王乖彦さんは以前、心筋炎や心室性期外収縮で入院し、そのために、張さんの父親の体重は 2 ヶ月で 15 キロも落ちました。医者だった王乖彦さんは手を尽くしましたが、治りませんでした。1998 年に法輪功を修煉し始めたところ、２人とも病気が治り、それ以来 26 年間、健康を維持しています。以前は病気の苦しみのために怒りっぽかった張さんの両親は、穏やかで優しくなり、仲睦まじくなりました。

しかし、中国共産党政権は 1999 年 7 月 20 日から法輪功に対しての弾圧を始めました。王乖彦さんは、張一文さんが 7 歳の時からその弾圧で何回も逮捕されて監禁されました。今回警察は、2024 年 4 月 11 日に王乖彦さんが他の学習者の家にいたところを不法に連行して陝西省宝鶏市第二留置場に拘束しました。

1999 年以来、中国で拷問や迫害により死亡した法輪功学習者は、身元が確認できた人数だけでも 5,010 人以上に達していて、実際の人数は統計することすらできないと言われています。

現在、留置所に拘束されている王乖彦さんの親族は今でも彼女に面会することさえ許されていません。今、張一文さんの母親、王乖彦さんの身には重大な危機が迫っています。

よって、国におかれましては、人道的見地に立って在日会社員の張一文さんの母親、王乖彦さんの早期救出に全力を尽くすよう強く要望します。

地方自治法第 99 条の規定により、意見書を提出いたします。

令和６年６月４日

○○○○○議会議長　○○　○○

宛先：
衆議院議長　　額賀　福志郎　様
参議院議長　　尾辻　秀久　様
内閣総理大臣　　岸田　文雄　様
総務大臣　　松本　剛明　様
外務大臣　　上川　陽子　様
国家公安委員長　　松村　祥史　様
警察庁長官　　露木　康浩　様

HELP、助けて

張一文

私が生まれ育った中国には言論の自由がない。メディアは中国共産党の代弁者であって、日本のマスコミのような報道機関は存在しない。

中国の報道機関はいつも共産党政権に同調し、言いなりになっている。1999 年 7 月 20 日に共産党が法輪功に対する迫害を始めた時も、すべてのテレビ局や新聞社はいっせいに法輪功を誹謗中傷する内容を報道した。私たちは声を上げたくても上げられない状況だった。

私はその影響で、今回の「母の不法逮捕」までその恐怖と隣り合わせで生きてきた。

▲ 衆議院ん第二議員会館にて請願、母・王乖彦の解放を求める

不法に勾留された母

今年（2024 年）、私の母・王乖彦（オウ・カイゲン）は中国の留置場で勾留された。

4 月 15 日、陝西省宝鶏市第二留置場から父に、「王乖彦が施設内で生活するために、日用品を買う金が必要だ」という連絡が入った。単身赴任中の父は、その一報で初めて母が勾留されていることを知ったという。日本では考えられない対応だ。

私は「明慧ネット」という安全な情報サイトを通じて、母が他の法輪功学習者とともに不法に逮捕されたことを知った。すぐに中国の公安や留置場などに電話をかけたが、母との会話などは一切許されなかった。

母が不法に逮捕されたのは今回が初めてではない。1999 年から今に至るまでの 25 年の間に、私の母は何度も不法に逮捕され判決を受け、投獄されてきた。私が育つ中で、母と過ごせた時間はわずか 5 年にも満たないものだった。私は以前友人に、冗談まじりに「母はいるが、他人から見れば片親で育った子供に見えるかもしれない」と言った。誇張ではなく、中国にいた時は、警笛を聞くだけでいつも緊張し、母が逮捕されるのではないかと常に恐れていた。

「真、善、忍」を肝に銘じて

1998 年、私が 6 歳の時、家族で法輪功の修煉を始めた。

当時、心臓病を抱えていた母は、知人の紹介で中国で人気の健康法である気功に目を向けた。なかでも法輪功は、奇跡的な健康効果から中国全土で一大ブームを起こしていた。

両親は法輪功の「真、善、忍」の理念に深く感銘を受け、「これこそ自分が待ち望んでいたものだ」と思ったそうだ。修煉を始め、「真、善、忍」に従って自分を律してきたら、現代医学では解釈できない奇跡が両親の身に起き、2 人とも自然と病気が治った。

▲ 天安門広場で法輪功学習者を押さえつける警官

母は修煉する前、計算高い人だった。法輪功を修煉してからは、他人のことを優先して考えるようになり、寛容さや慈悲の心、道徳を重んじるようになった。私は複雑なことは理解できなかったが、当時から「真・善・忍」の教えをずっと肝に銘じている。

国家ぐるみの迫害

1999 年には、法輪功学習者の数が当時の中国共産党員の数（約 6350 万人）を上回った。

当時の共産党トップ・江沢民は、そんな法輪功の人気に嫉妬し、恐怖を覚えた。「真・善・忍」の理念が広がれば、嘘と暴力で維持されている共産党政権の支配は崩れてしまうからだ。

そこで、江沢民は法輪功への迫害を始めた。それまで中国全土で広く称賛されていた法輪功は、一夜にして「危険なカルト」として中傷されるようになった。

▲ 1999 年以前、北京の法輪功学習者が煉功する

法輪功に対する迫害は国家規模で行われた。多くの地域の学校で、法輪功に反対する署名活動や宣伝活動が実施され、教科書には法輪功を貶める内容が掲載された。法輪功学習者を発見して警察に通報した国民には、報奨金が与えられた。

当時教師だった母の上司は公安に協力し、母の給与を月 2 万円以下にカットした。それは母に修煉を放棄させるためだった。私が子供の頃に法輪功を一緒に学んだ友達とは、迫害が始まってからはほぼ誰にも会ってない。親が殺されてしまった子も数人いる。

実際、中国の法律では、法輪功は違法とはされておらず、カルトでもない。2011 年 3 月 1 日、中国新聞出版署長は、法輪功関連印刷物の出版を禁止する 50 号の禁止命令を取り消し、法輪功の全ての出版物や宣伝資料が合法であると宣言した。

法律で規定されていなければ罰することはできないということは、法の基本原則だ。法輪功を「カルト」と定義した唯一の文書は、最高人民法院と最高人民検察院が出した内部通知に過ぎず、これらは法的根拠としては成立しない。

恐怖が消えた

4 月に母が拉致されたと聞いて、私は様々な政府機関に電話をかけ、母の釈放を求めた。

政府関係者に電話をかけるのは初めはかなり怖かった。ある日、電話で母の釈放を求めていたとき、相手の声がかなり緊張しているように聞こえた。ふと「彼らも怖がっているのではないか」と気づいた。彼らは自分たちの悪事が暴かれることを恐れている。そのことに気づくと、私の恐怖心が、全てではないが、自分が感じるほど自然と消え去った。

私は大紀元の記者として、中国共産党にとって都合の悪い真実を日本社会に伝えている。これまでは、中国にいる家族が嫌がらせを受けることを心配して、本名と顔を出さないようにしていた。

今回、母の救出活動をきっかけに、自分の考えも一変した。私が堂々とすればするほど、法輪功迫害に対する世間の関心が高まれば高まるほど、中国共産党当局は私の家族への迫害をためらうだろう。

母は恨まなかった

私はこれまで、無実の人々を逮捕し、裁きにかける中国の役人を、全員悪者だと思っていた。しかし、母は違った。

母は 7 年前にも拘束されたが、その時の法廷での陳述で、「法輪大法の信念を迫害する行為は犯罪にあたるので、その罪を犯さないでほしい」と役人に呼びかけ、迫害停止を訴えていた。母の慈悲深さと真相を伝える姿勢は、裁判官や検察官に深い感銘を与えたそうだ。

この話は最近初めて知った。直接迫害を受けた母には怨恨の心がないのに、私には中国共産党の嘘に騙された人々を責める心があった。そんな自分の怨恨の心を私は恥じた。

無関心の恐ろしさ

多くの中国人は「法輪功は自分には関係ない」と思って、この問題を無視している。それは、中国共産党のおかげで自分の暮らしがあると洗脳されている。

私は日本で信仰の自由を享受できている。しかし母国では、友人や家族が信仰を貫こうとしただけで家庭や仕事、自由、そして命さえも失っていくのを目の当たりにしてきた。

この恐ろしい迫害を国民が黙って見過ごしたことで、生体臓器摘出の被害者は法輪功学習者のみならず、少数民族、若者や子供たちにまで広がってしまっている。これは悲劇だ。

今まで中国国内で拷問や迫害により死亡した法輪功学習者は、身元が確認できた人数だけでも 5000人以上に達しており、実際の人数は統計することすらできないと言われている。母を一刻も早く救出するために、どうか力を貸してください。